

駐屯地創立67周年記念行事への来隊ありがとうございました

平成最後となる駐屯地創立67周年記念行事が、大勢の皆さまのご来場を賜り大盛況で終えることが出来ました。ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。

本年の創立記念行事は、3,546名の方々にご来場いただきました。昨年度よりも540名多い来場者数です。これは、例年ポスターの掲示にご協力頂いている方々に加え、1週間前に炊事支援をした諫早グルメフェスティバルで記念行事の紹介も出来たり、地域のコミュニティFMでも取り上げて頂いたり、口コミで広めていただいたりと、駐屯地隊員の広報活動だけでなく、色々な方々のご協力があった成果ではないかと感じています。本当に感謝です。

式典における式辞の内容ですが、大村駐屯地は、長崎県（対馬除く）の災害派遣と長崎県（対馬除く）と佐賀県の防衛・警備を担当する第16普通科連隊が基幹部隊の駐屯地です。県内には、日本においても重要な自衛隊の部隊が所在する駐屯地や基地が幾つもありますが、各種事態においては、我々の部隊が基幹部隊となります。そのことを、今後も、しっかりと自覚して参ります。

また、祝賀会食の挨拶でも、自衛官としてどうあるべきかについて話を致しました。

技術の発展により、世の中が複雑になるなかで、SNSでの誹謗中傷など、人々の心が荒んでいる面も感じられます。人の荒は気づきやすく、良い面はスルーし易いものです。同じ組織の中において、お互いを非難しあっている良い結果は生まれません。

私は、日頃、自分以外の人は自分とは違うということを受け入れ、良いところを見つけて誉めることを薦めています。そうすることで、歯車は噛み合い始め、相乗効果による大きな成果に繋がるのです。

また、「笑い」もテーマにしています。一言で「笑い」といっても、いい加減でいいとか、笑顔を作ればいいというものではありません。それでは、本物の「笑い」にはなりません。一生懸命頑張って、成果がでてこそ、本物の「笑い」に繋がるのです。そういった笑いに満ち溢れた組織こそ、強い組織だと思うのです。

総じて、自衛官である前に、よき社会人、よき日本人であらねばならないと思うのです。

これからも大村駐屯地は、担当する長崎県及び佐賀県のため、日々努力、日々進化し、これまで築き上げてきた輝かしい歴史を引き継いで参ります。

第16普通科連隊長兼大村駐屯地司令

1等陸佐 南野 延寿